

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

分担研究報告書

褐色細胞腫・パラグングリオーマに関する研究

研究分担者 田辺晶代 国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科・医長

研究分担者 成瀬光栄 医仁会武田総合病院 内分泌センター・センター長

研究要旨

「褐色細胞腫・パラグングリオーマの診断ガイドライン」の改訂・英文化の準備作業を継続した。加えて、他研究班と共同で再構築中の症例レジストリシステムにおける調査項目設定作業、旧システムデータの移行作業を行った。

A. 研究目的

褐色細胞腫は代表的な内分泌性高血圧症である。放置すると致死的不整脈を生じることから早期診断・早期治療が重要である。転移を生じる症例は約30%であるが、臨床的に良性悪性の鑑別が困難であり、全例が悪性腫瘍に分類されている。稀少疾患であることから診断、治療におけるエビデンスが少なく、内分泌医のみならず、他領域の診療を専門とする医師にとって有用な診断基準、診療ガイドラインの策定・定期的更新、症例情報の収集が必要である。本研究では、「褐色細胞腫・パラグングリオーマの診断ガイドライン2018」の改訂作業を日本内分泌学会臨床重要研究課題委員会と共同で行い、さらに国立国際医療研究センター研究開発事業と合同で症例レジストリ構築を行うことを目的とした。

B. 研究方法

「褐色細胞腫・パラグングリオーマの診

断ガイドライン」の改訂に向けたエビデンス収集作業、英文化に向けた各章のステートメント・エビデンス文章の短縮化作業を継続した。また、国立国際医療研究センター国際医療研究開発研究班と共同で運営している症例レジストリシステムを移転し再構築することになったため、システムに登録する調査内容の設定作業、旧データの移行のためのデータクリーニング作業を行った。さらに旧データを用いて、カテコールアミン非活性褐色細胞腫に関する解析を行った。

C. 研究結果

《診療ガイドライン改訂》 2023年度のガイドライン改訂をめざし、改訂が必要な項目と不要な項目の選別を行った。改訂が必要な項目として、2019年4月以降に保険適用となった、血中遊離メタネフリン測定、カテコラミン合成阻害薬、¹³¹I-MIBG内用療法が挙げられた。これらの項目を含め、ガイドライン策定や診断基準策定の参考となる診

療実態の情報をレジストリシステムで収集するため、レジストリの調査内容を設定した（後述）。

《英文化》 改訂後のガイドラインの英文化に向けてガイドライン2018から特に重要な項目の抽出、各章のステートメント・エビデンス文章の短縮化作業を継続中である。

《レジストリ登録における調査項目の設定》 欧米で標準的診療として実施されている遺伝子検査、造影CTであるが、本邦では遺伝子検査は保険適用がなく、造影CT検査は造影剤添付文書に原則禁忌と記載されおり施行が困難である。新システムでは、これらの検査の実施の有無、所見に関する調査項目を新たに設定した。また、2019年4月以降に血中遊離メタネフリン測定、カテコラミン合成阻害薬、¹³¹I-MIBG内用療法が保険適用となったことから、診療への活用や有効性の情報を収集するためこれらに関する調査項目を設けた。

D. 考察

新規の診断・治療内容を反映したガイドラインの更新によりわが国での診療の進歩と均てん化が期待できる。ガイドラインの継続的な改訂には実態調査およびエビデンスの収集が必要である。本疾患における本邦でのエビデンスが少ないことから、他研究班と共同で症例レジストリシステムを構築・維持し、創出されたエビデンスをガイドラインへ反映させる必要があると考えられる。

E. 結論

「褐色細胞腫・パラガングリオーマの診断ガイドライン」の改訂・英文化の準備作業を継続した。さらに、他研究班と共同で再構築中の症例レジストリシステムにおける調査項目設定作業、旧システムデータの移行作業を行った。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし